

# 「NPO 法人北海道魚道研究会のこれまでの歩みと今後の展望」

## ～施設管理者と協働する魚道管理を目指して～

NPO 法人 北海道魚道研究会

理事長 奈良 哲男

### 1. これまでの歩み

NPO 法人北海道魚道研究会は、平成 17 年「道南魚道研究会」として設立され、翌年から名称も現在のものとなり今年、令和 4 年で 18 年目となりました。会員数も法人会員 81 法人、個人会員 20 名の北海道全域からなる団体となっています。

主な活動は、道内 3 地区での魚道清掃ボランティア、魚道や河川環境に関する講演会、小学生を対象とした河川環境体験教育を毎年実施してきました。また、設立当初から魚道管理の在り方を研究テーマとして、北海道内に設置された魚道情報を web 上でデータベース化した「魚道データベース」の構築を進めてきました。

これらの継続的な活動と取り組みが評価され、平成 29 年国内の社会資本のメンテナンスに係る優れた取組や技術開発に授与される第 1 回「インフラメンテナンス大賞 優秀賞」をいただきました。

### 2. 施設管理者と協働する魚道管理を目指して

北海道内の約 3,400 箇所設置された魚道には様々な機能障害が見られ、適切なメンテナンスが必要となっています。しかし、一つの河川流域で下流・中流・上流にある魚道は、利水や治水など様々な施設の施設管理者が管理しており、その情報は流域全体として機能的に共有化されているとは言えません。これは北海道だけではなく、日本国内でも同様です。北海道魚道研究会は、一元化されていない魚道情報をデータベース化して、管理者に情報提供をおこない魚道管理の協働を目指しています。

昨年令和 3 年からは、誰でもが使いやすい魚道データベースシステムの再構築を進めています。特徴は、スマートフォンからでもアクセスし閲覧や入力容易で、視覚的にもわかりやすいシステム（アプリ）を目指しています。

### 3. 今後の展開

16 年前に河川環境教育「川童（かわがき）教室」を体験した児童は現在 23 才～29 才の大人です。われわれは同じ活動を毎年おこなっている感覚なのですが、それを体験する側にとっては新鮮で貴重なもので、河川環境に対する思いや経験に影響を与えているのだと感じます。魚道に関する日々の管理や新しく構築する魚道など、データベースや講演会を通じ、魚類遡上環境保全に貢献できるものと考えており、今までの活動を毎年確実に実施できる組織強化とともに次世代への引き継ぎを進めています。また、今後は一般の市民に対しても「魚道というもの」、「管理の必要性」や「在り方」など、理解していただく活動も重要と考えています。現在進行形の魚道データベースシステム（アプリ）の再構築はその機能も含め進めています。今後も NPO 法人北海道魚道研究会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

以 上